

マリアニスト家族、連帯のための小さな犠牲



COVID-19により、全世界が危機に瀕しています。人々はこの病気に苦しんでいて、人間の活動が形を変えられています。そして地球は長い間休息期に入っています。

は再び青くなり、粒子状の物質がはるかに少なくなれば、空は再び青くなり、絶滅寸前の動物が再び生き続けます。

神はこの瞬間でさえ私たちを呼んでおられます。「フィアト（私にご命令ください）」と言って神のご意志を喜んで受け入れた小さなメアリーののように、地球のうめき声に応じて命を救うことに率先して取り組むことに「はい」と言えます。メアリーはすでに神の憐れみと温

か

さ、そして神がどれほど彼女を愛しているかを知っていました。

COVID-19 は私たちの心を貧しくしています。困難な状況に疲れ果てて絶望し、私たちは隣人の世話をするという善意を失っています。イエスが引き裂かれ、十字架に釘付けにされたのを見て、マリアは自分自身を失うことはありませんでした。そして、揺るぎない態度と言葉で弟子たちを慰めました。

マリアニストとして、私たちはメアリーの揺るぎない信仰を受け入れ、困窮している隣人と人間性という共通の宝物のための、より大きな連帯のために、小さな犠牲を払うことによってメアリーの宣教師としての義務を果たすべきです。

キム・フンチュン（ジョン）

教育責任者

ソウル MLC

ソウル MLC は、COVID-19 に関係なく、マリアニストの道を模索し続けています

人為的な災害、気候変動、ウイルスなどにより、世界は息をする余地がない状態になっています。困難にもかかわらず、私たちは聖母の母なる愛に基づいて、神の子供たちとマリアニスト家族としての時代の要求について考えなければなりません。

韓国のソウル MLC は、ビデオ会議を開催し、ミサの間はソーシャル・ディスタンスを実行し、対面活動を停止させた COVID-19 のために、コミュニティの集まりを停止しました。一部のコミュニティではオンライン会議が行われました。

7 月 19 日、コミュニティの長はマリアニストセンターの聖母の柱大聖堂で会合を開き、さらに長期にわたるソーシャル・ディスタンス期間に関するメンバーの創造的な提案に耳を傾けました。たくさんの素晴らしい意見がありました。そのうちの一つは、マリアニストセンターのウェブサイトで精神的な成長のためのオンライン読書コミュニティ〈チェクバン・マリセオサ（マリアンブックスおよびアイディア）〉を開くことであり、多くのメンバーが参加しています。



マリアニスト家族の世界の祈りの日、10月11日、私たちはエクアドルのエルサルトの聖母に、ソーシャル・ディスタンスを保ちながら真剣に一緒に祈りました。



10月14日、聖母の柱共同体のキム・ミョンジャ（リタ）が夫を亡くしました。マリアン修道院の移転と建設以来、私たちは平信徒のためのマリアニストセンターの聖母の柱大聖堂で最初の葬儀のミサを行いました。祭祀式はラザロホールで行われました。

キム・フンチュン（ジョン）

教育責任者

ソウル MLC